

専攻科生徒会活動の一環としての【空飛ぶ車いす】 支援事業における交流及び社会貢献の実践報告

武林 靖浩

本校高等部専攻科生徒会では、神奈川工科大学車いす整備サークルが中心となって行っている『空飛ぶ車いす』支援事業の一つとして、整備交流会を本校で開催した。この交流会では、一般の大学生及び高校生と車いす整備活動を通して交流を行った。今回の交流会の意義を次の観点から考察した。(1) 健聴者との交流を通して気づいた自己理解・他者理解。(2) 海外の障害を持つ人々のために車いすを整備して送ることを通して学んだ社会貢献の意味。この活動の実践報告をすると共に、本校生徒及び参加した一般の大学生、高校生に実施したアンケート調査の結果をふまえ、その成果と今後の課題について発表する。

【キーワード】 空飛ぶ車いす コミュニケーション 自己理解 他者理解 整備交流会

1 はじめに

本校高等部専攻科生徒会では、生徒会行事の一環として、車いす整備のボランティア活動を行っている。これは日本社会福祉弘済会が支援し、神奈川工科大学車いす整備サークルが中心となって行っている『空飛ぶ車いす』支援事業（古い車いすを分解・整備・再生し、車いすを必要とするアジアの人々にプレゼントする活動）の一つである整備交流会を本校で開催する形で実施したものである。この整備会の実施に至るまでの経緯と現在の状況、及び今後の展開や課題について報告する。



日本社会福祉弘済会ホームページ

2 『空飛ぶ車いす』支援事業とは

『空飛ぶ車いす』支援事業の支援母体は、日本社会福祉弘済会である。日社済は福祉に携わる方々の専門性と福祉の向上を図り、我が国及びアジア諸国の福祉発展を目指し活動を行っている団体である。下記の図のホームページより詳しく参照できる。

『空飛ぶ車いす』支援事業の活動の中心的役割を担っているのは、神奈川工科大学車いす整備サーク

ルであり、海外の車いすが不足している地域へ日本で使われなくなった車いすを整備し贈る『空飛ぶ車いす』活動や福祉施設・病院等の車いすメンテナンス活動を行っている団体である。

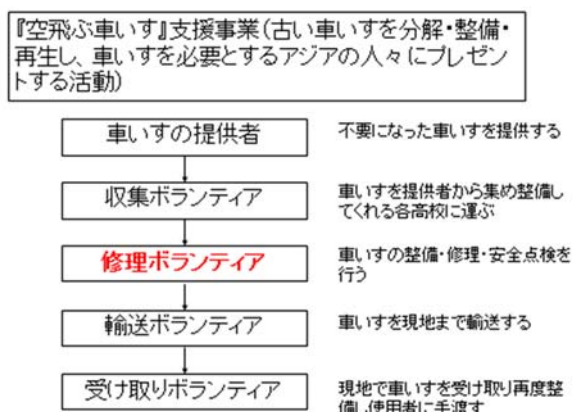
これらの活動は、上記の団体が中心となり、全国の工業高等学校や新潟医療福祉大学の義肢装具自立支援学科の学生が参加し行っている。

この活動は、高等学校の COMET English communication I の教科書でも紹介されており、広く知られた活動である。

3 本校のボランティア活動の初期の取り組み

車いす整備ボランティアは、平成23年度にホームルーム活動として始まった。車いす1台を上記の団体より提供していただき、これをクラスの生徒が整備・修理し、団体に送り返すことでボランティアを行った。

このボランティアは、『空飛ぶ車いす』支援事業の中では、「修理ボランティア」と呼ばれ、下記のボランティア活動の流れの中では、中間的な位置になる。



活動を始めるに当たっては、生徒にボランティア活動の主旨を説明し、生徒全員の賛同を得た上で活動を開始した。

整備内容は、部品の洗浄やタイヤ交換、錆び取り等である。車軸部分のベアリングの修理・清掃、ブレーキの調整・清掃も行い、必要に応じて部品交換を行った。整備後は、各部の安全点検を行い、車輪のゆがみや使用した場合の不具合を、実際に生徒が乗って確認をした。

最後に、生徒から自分たちが整備した車いすを使用してくれるタイの方に手紙を出したいとの提案が出された。手紙では搬送中に紛失する可能性があるため、伝えたい言葉をタイ語に翻訳したシールを作成し車いす本体に貼ることになった。タイ語への翻訳は、使用者にメッセージが伝わるようにという生徒からの希望である。生徒はインターネットを活用して翻訳し、シールを作成した。



写真1 生徒が作成したシール

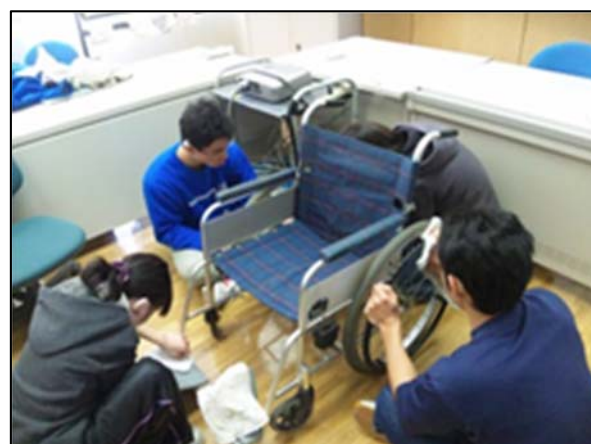


写真2 活動の様子

4 ボランティア活動2年目の取り組み

活動が2年目に入り、前年度はホームルーム活動として行っていた活動を、今年度は生徒会行事に移行した。活動内容も、本校で整備会を開く方向で検討を始め、本校生徒が一般の高校生や大学生との整備活動を通して交流し、他の障がいのある方々のために社会貢献をするという点に重点を置く形になった。

整備会は平成25年2月10日(日)に車いす整備交流会として本校で開催された。専攻科生徒会では、ボランティア活動を通し、整備会に参加した大学生や高校生との交流を行った。

今回参加した団体は、東京都立蔵前工業高等学校(10名)、東京都立北豊島工業高等学校(4名)、神奈川工科大学車いす整備サークル(3名)、筑波大学附属聴覚特別支援学校専攻科(14名)、関係団体関

係者（13名）の総勢44名であった。

今回の整備会では、20台の車いすを整備した。一般の大学生と高校生、本校専攻科生で混成グループを作り、作業はそれぞれのグループで協力して進められた。本校生徒は、自分なりにコミュニケーション方法を考え、意思疎通を図っていた。各校の生徒たちも大きな身振りを交え、お互いに一生懸命話していた。障がいのある生徒と障がいのない生徒や学生が、アジアの人々に車いすを届けたいという目標に向かって、共に笑い、共に汗をかいている姿は印象的であった。

最後に、大学生よりタイや韓国での整備会の様子について報告がされた。また、車いすの取り扱いについて、実演を交えた講習会を行った。

障がいのある生徒と障がいのない生徒や学生との交流は、生徒にとって、障がいの有無という枠ではなく、一人の人間として向き合い、本当の意味での相互理解につながる貴重な体験であった。そして、障がいのある生徒たちが、他の障がい者のためにボランティア活動を行うことは、自己理解と他者理解につながるのだと思われる。

5 この整備会の参加者に対し意識調査を行った。

アンケートは、参加した本校生徒と他校生、大学生に向け行った。アンケート内容は、下記に示した。

平成24年度「空飛ぶ車いす」整備交流会 アンケート 専攻科生徒会

先日の整備交流会はお疲れ様でした。今後の活動に役立てるためアンケートにご協力をお願いします。

1. 整備交流会に参加してどう思いましたか？(1つOをつけてください)

①良かった ②まあまあ良かった ③普通 ④あまり良くなかった ⑤良くなかった
(理由があれば書いてください)

2. 整備交流会に参加する以前に、車いすに触った事がありましたか？(1つOをつけてください)

①ある ②ない

3. 整備交流会の中で楽しかった事は次のうちどれですか？(複数にOをつけてOKです)

①車いすの整備 ②梱包用の袋の作成 ③他の高校生との交流 ④大学生との交流
⑤昼食時の交流 ⑥外国での整備会についての報告会 ⑦車いすの使い方の説明会
⑧その他()

4. 整備交流会の中で、聴者とのコミュニケーションはできましたか？(1つOをつけてください)

①良くてきた ②まあまあ良くてきた ③普通 ④あまりできなかつた ⑤できなかつた
(理由があれば書いてください)

5. 整備交流会の中で、聴者とのコミュニケーション手段は何でしたか？(複数にOをつけてOKです)

①手話 ②口話 ③筆談 ④身振り ⑤読話 ⑥その他()

6. 整備交流会で困った事はありますか？
()

7. また、整備交流会があれば、参加したいですか？(1つOをつけてください)

①参加したい ②まあ参加したい ③どちらでもない ④あまり参加したくない ⑤参加したくない
(理由があれば書いてください)

8. 整備交流会に参加した感想

9. 今後、整備交流会でやってほしい事、改善してほしい事

10. その他

(1) 整備交流会に参加してどう思いましたか？

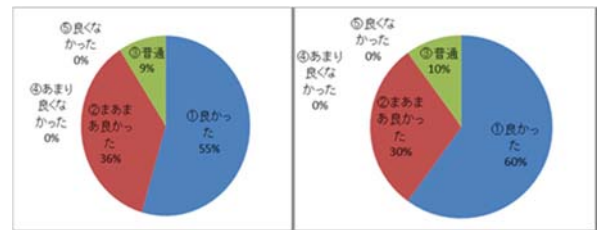


表1 本校生徒

表2 他校生徒・大学生

(2) 整備交流会の中で楽しかった事は次のうちどれですか？

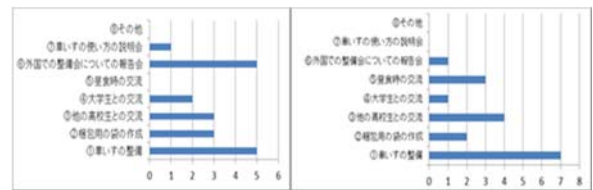


表3 本校生徒

表4 他校生徒・大学生

(3) 整備交流会の中で、コミュニケーション手段は何でしたか？

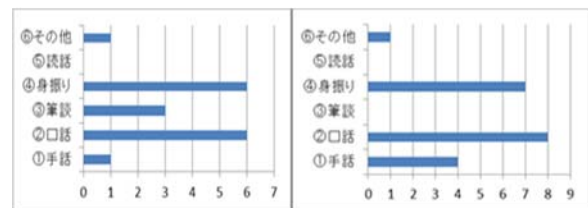


表5 本校生徒

表6 他校生徒・大学生

(4) 整備交流会の中で、コミュニケーションはできましたか？

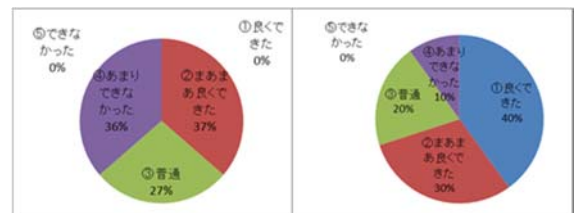


表7 本校生徒

表8 他校生徒・大学生

(5) 整備交流会で困った事はありますか？

本校生徒 「車いすの整備の手伝いに参加しました。聴者と協力しながらやりましたが、昼食会はほとんど、コミュニケーションが上手くとれなかつた。」この生徒は、次回の整備会にも、ぜひ出たいとアンケートに書いており、コミュニケーションの壁を前向きに乗り越えたいという姿勢が出てきている。



写真4 整備の様子



写真5 昼食時のコミュニケーション



写真6 集合写真

整備交流会に参加した感想についてのアンケートでは、「今までにこのような体験をしたことがなかったので、良い経験になったと思います。外国の方で、未だに、車いすを持っていない人々がまだまだいることを知り、その人たちに希望を与えたいと思いました。」という感想があった。この感想からもうかがるように、この体験が、自己理解を深めながらコミュニケーションの取り方の工夫を考える機会にな

るだけではなく、外国の障がい者の現状に目を向け、その人々の役に立ちたいという姿勢を養うことにつながったと思われる。

6 今後の展開と課題

(1) 意思疎通の改善点では、タブレット端末やブギーボードの活用等のアドバイスを提示しながら、生徒たちに考えさせていきたい。また、他校生徒や大学生には、整備内容の提示の仕方等を工夫してもらい、お互いに意見交換の場を作っていきたい。

(2) 今後は、外国の障がい者の現状や他の障害種別の状況について、専攻科生徒会として学習する場を作っていきたい。

(3) 25年度の整備交流会を成功させると共に、将来は、整備した車いすを生徒自身がタイへ運び、タイの聾学校との交流整備会を実現していきたい。

7 最後に

今回整備された車いすが、実際に海を渡り、タイの人々に届けられ、実際に使用されている事は、世界につながっているという喜びにつながった。そして、生徒たちは、ボランティア活動を通じて達成感を得る事ができたと思われる。



写真7 整備された車いすがタイへ届けられた様子

【参考文献】

- ・西光 義弘ほか9名
COMET English communication I Lesson7
Flying Wheelchairs 数研出版
- ・日本社会福祉弘済会 アジアに届け『空飛ぶ車いす』

<http://www.nisshasai.jp/soratobu/index.html>